



## はじめに

### □▷ 国際社会学って何だろう？

本書では国際社会学という学問を読者のみなさんに紹介したいと思います。国際社会学とはどのような学問なのでしょう。どこにその魅力があるのでしょうか。

一言で言うと国際社会学は、グローバル化とその社会への影響を探究する学問領域のことです。ですから、国際社会学は、国境を越えたり超えたりするモノたちと、そこから生じる社会問題を対象としています。

大学の授業であれば、次の問いから講義を始めています。「さあ、何が国境を越える（超える）でしょう？」あなたなら何を挙げるでしょうか。

これまで、学生たちがくれた答えは多彩でした。一人暮らしの学生は、スーパーマーケットの中国産野菜が気になるようです。音楽好きの学生はヘビメタルの輸入盤 CD を挙げますし、おしゃれ好きな女子学生はプラダのバックと言います。スポーツ好きの学生が「セギノール」と答えたときには風邪薬の名前かと思いましたが、どうやら楽天など日本のプロ野球チームでプレーしていた野球選手のことでした。もちろん、人も国境を越えるわけです。留学を希望する学生は、インターネット経由でイギリスの BBC ニュースやアメリカの CNN ニュースを見て英語の勉強をしていました。また映

画好きならハリウッドの映画を挙げますし、韓国のドラマにはまっている学生もいました。情報や文化がどんどん行き交う時代にわれわれは生きているのです。

学生が気づきにくい例を挙げ、学生の「当たり前」をこわす。これが講義をする側の楽しみです、社会学の醍醐味の1つでもあります。国境を越えるモノに関して、今までは身近で意外な例をいくつか示すことができました。まずは日本のマンガやアニメです。『ドラえもん』が東南アジアで人気なのは比較的知られていることでしょう。しかし「私のイタリア人の友人が『キャプテン翼』のファンだ」と言うと、学生は「ほう」と意外そうな顔をします。『キャプテン翼』を読んでサッカーを始めたフランスのプロサッカー選手がいるとも聞きますが、学生にはあまり知られていないようです。

環境汚染も国境を越えていきます。隣国で黄砂が降ると日本にもやってきます。複数の国を貫いて流れている川では、上流の国で環境汚染が起きると簡単に下流の国へと流れていってしまいます。2017年に日本で発見された意外なモノは、ヒアリでした。ヒアリはアリの一種で毒を持ち、刺すと人間に大きな健康被害を与えかねません。主に船で輸入される木材などに付着して、海外から移動してくるのです。

ほかにも、ここ何年かで急激に注目されているのは感染症です。かつては「病気も国境を越えますね」と言うと、学生は「そうか、気がつかなかった」とうなずいたものでした。ところが、最近は意外そうな顔をしません。新型インフルエンザや鳥インフルエンザの流行も記憶に新しいものですが、なんといっても新型コロナウイルス（COVID-19）のせいです。2019年の年末から、世界中に広まりいわゆるパンデミックを起こした新型コロナウイルスは、感染症が

国境を越えて移動することをまざまざと見せつけました。

けれども、よく考えると感染症自体が移動するわけではありません。感染した人や動物が移動し、他の人や動物と接触して感染を広げていくのです。けれども、極小で姿が見えないだけに、まるで病気が意志を持って動いているようにも思えてしまいます。

いまや、感染症の移動のほうが自動車や電化製品が海を渡ることよりも身近になってしまったようにすら思えます。とすると、大事な講義のネタの1つが、賞味期限切れになってしまったのでしょうか。

いや、そうとも言い切れません。感染症は、人々の別の「当たり前」をこわしてしまいます。それは、国境の人為性です。どんなに強固に見えても、たまたま山や川や海など自然物で区切られていようと、国境はしょせん人間がつくったものです。人間の活動とは無関係だと思われがちな国境を、感染症はやすやすと越えて各国へと広まっていくわけです。国境は、人間の存在以前からそこにあるわけではないのです。

そこで講義は2つめの問いへと向かいます。「さあ、どのようにして国境はつくられたのでしょうか？」たとえば、このように講義が展開すれば、みなさんにとって国際社会学がもっと身近になり、グローバル化をよりよく理解できるようになることでしょう。

## □ 「思い込み」を乗り越えよう

このように、いろいろなモノが移動する時代にわれわれは生きています。国境はかなり低くなっているといつてよいでしょう。すなわち、いろいろなモノが、国境を「越える」ことによって、国境を「超えた」社会や人間関係や制度ができあがってきているのです。

この、モノが国境を「越える」ことが頻繁に起こり、常に複数の社会がつながっているような国境を「超える」ことこそ、このグローバル化時代の特徴なのだと思います。

本書は、私たちの生活世界によりそった国際社会学の「超入門書」をめざしています。従来の国際社会学の本には敷居を高くしている理由がありそうです。それは国際社会学の解説書が、普通の人々の素朴な「思いこみ」や「神話」との関連をあまり意識していないことです。たとえばそうした「思いこみ」には、「日本は小さな島国なのに国際移民が多すぎる」というものがあります。たしかに他国と比べると「小さく」そして「島国」かもしれないけれども、「国際移民が多すぎる」かどうかどのように判断できるのでしょうか。また、「この国は単一民族の国である」という「神話」もあります。しかし、各国の人口構成のデータを見ると、単一民族の国など皆無ではないでしょうか。さらに、外国人が増えると犯罪が増えるという「神話」も繰り返し語られています。

そこで、本書は人々の「思いこみ」や「神話」を念頭に置きつつ読者に馴染みのありそうなテーマを取り上げ、国際社会学を学ぶ工夫をしてみました。すなわち、「旅」「出会い」「食と文化」「難民危機」「移民受け入れ」「重国籍」「恋」「領土問題」「ポピュラーカルチャー」といったテーマを通じて、国際社会学の世界に読者を誘おうという工夫です。国際社会学を楽しく学び、グローバル化のなかで、よりよく生きるための戦略的基盤をつくることにしましょう。

/// ウェブサポートページ ///

学習をサポートする資料を提供しています。下記の QR コードからご参照ください。

[https://www.yuhikaku.co.jp/yuhikaku\\_pr/y-knot/list/20007p/](https://www.yuhikaku.co.jp/yuhikaku_pr/y-knot/list/20007p/)



## 著者紹介

樽本 英樹 (たるもと ひでき)

早稲田大学文学学術院教授。愛知県名古屋市生まれ。1999 年東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士（社会学）。北海道大学大学院文学研究科教授を経て、2018 年より現職。

著書に『よくわかる国際社会学〔第2版〕』（2016 年、ミネルヴァ書房）、『国際移民と市民権ガバナンス——日英比較の国際社会学』（2012 年、ミネルヴァ書房）、編著書に、『排外主義の国際比較——先進諸国における外国人移民の実態』（2018 年、ミネルヴァ書房）、『現代人の国際社会学・入門——トランスナショナルリズムという視点』（西原和久との共編著、2016 年、有斐閣）、執筆論文に“La transformation en pays d’immigration dans le contexte urbain? Le cas du Japon” (Fiorenza Gamba et al. (dir.), *Ville et créativité*, Seismo, 2023), “Immigrant Acceptance in an Ethnic Country: The Foreign Labor Policies of Japan” (John Stone et al. (eds.), *The Wiley Blackwell Companion to Race, Ethnicity, and Nationalism*, John Wiley & Sons, 2020) などがある。

/// 読者へのメッセージ //////////////////////////////////////

国際社会学と聞いて、難しそうだと思いますか。私が 1990 年代初めに勉強し始めた頃は、教科書など存在せず、難しくて苦勞しました。でも 21 世紀に学ぶ読者のみなさんは大丈夫。本書があります。「旅」や「出会い」や「恋」など親しみやすいトピックから入り、ちょっと応用的な内容までみなさんを丁寧に導きます。「国際」にあこがれながらも英語などまったく話せなかった私が理解できたのです。みなさんなら、きっと国際社会学のおもしろさに開眼することでしょう。

//////////////////////////////////////

# 目 次

|            |    |
|------------|----|
| はじめに ..... | i  |
| 著者紹介 ..... | vi |

## 第 I 部 基礎編

### 第 1 章 国際移民とは「旅」である ..... 3

自由な「旅」と社会秩序 (5)

#### 1 国際移民という「旅」 ..... 6

「旅」の構造 (6) 第二次世界大戦以前の国際移民 (9) 第二次世界大戦以後の国際移民 (10) グローバル化する国際移民 (11) 国際移民という「旅」の変化 (13)

#### 2 国際移民による社会の変容と「交流」 ..... 14

社会の変容 (14) 国際移民はよいことか? (17)

#### 3 国際移民への対処 ..... 19

伝統的国境管理 (19) 新しい国境管理 (20) 国境内への施策 (22)

#### 4 国際移民という「旅」と「交流」のこれから ..... 24

社会はどうなるのか? (24) グローバル化時代をいかに生きるか? (25)

Column 1 ベルリンの壁 (26)

## 第2章 グローバル化のなかの出会い ..... 27

- 1 パリの出会い ..... 29  
なぜパリ? (29) なぜ出会い? (31) なぜ社会学? (33)
- 2 出会いの社会的構造 ..... 36  
交響的關係 (36) 共同体的關係 (38) 目的限定的關係 (41) 拘束的關係 (43)
- 3 グローバル化と社会的緊張 ..... 45  
国境を越えてやってくる人々 (45) 社会的緊張 (1) ——イスラムのヴェール問題 (47) 社会的緊張 (2) ——極右勢力の台頭 (49)
- 4 グローバル化時代におけるよりよい出会いを求めて ..... 51  
パリの出会いからの示唆 (51) 交響的關係への転換 (51)

## 第3章 「食」と「文化」のグローバル化 ..... 53

- 1 「食」と「文化」のクエスチョン ..... 55  
「食」と「文化」から考える社会学 (55) 誰が, 何を食べるのか? (56)
- 2 生存のための「食」 ..... 57  
ファン・ゴッホの「食」 (57) パリの「サラメシ」 (58)
- 3 楽しみのための「食」 ..... 61  
フランスの「食」 (61) 「構造」のある「食」 (63)
- 4 パリにおける国際移民の「食」 ..... 64  
ユダヤ系——マレ地区 (66) アフリカ系——シャトー・ルージュ〜バルベス・ロシュシュアール (68) インド系——シャトー・ド〜ラ・シャペル (69) 中国系——オリンピアド周辺 (71)
- 5 人のグローバル化と「食」の多文化化 ..... 74  
アイデンティティをめぐる「食」 (75) 食による文化のステレオタイプ化



(77) 食による分断の進行 (79)

## 6 グローバル化における「食」と「文化」のこれから ..... 81

「食」と「文化」のダイナミクス (81) グローバルな課題としての  
「食」の尊重 (82)

Column 2 グローバル化とパンデミック (84)

# 第 II 部 現代編

## 第 4 章 「ヨーロッパ難民危機」はなぜ「危機」だったのか? ... 87

「難民危機」をめぐる問い (89)

### 1 「難民危機」において何が起こったのか? ..... 90

EU への庇護希望者の殺到 (90) 新しいルートの開発 (91)  
惨 事 (94)

### 2 なぜ、人々は移動したのか? ..... 96

マクロレベル——歴史・社会構造 (96) メゾレベル——社会的ネット  
ワーク (98) ミクロレベル——個人の合理的選択 (99)

### 3 「難民危機」はなぜ「危機」だったのか? ..... 101

モラルパニック (101) 2つの社会的境界の問題 (101) 受け入れ  
の難しさと境界における選別 (103) 市民権のパラドクス (104)  
制度的動揺 (104) 秩序回復をめぐるパラドクス (106) 国民国家  
内部の境界の顕在化 (109)

### 4 解決策は妥当か? ..... 111

難民受け入れの潜在能力? (111) 難民受け入れのネオリベラルな転  
回? (113) 「難民危機」を生み出したもの (114)

## 第 5 章 日本は移民を受け入れるべきなのか? ..... 115

国際移民と「思いこみ」(117)

**1 移民受け入れは人口減少を改善するのか？** ..... 118

人口減少の何が問題なのか？(118) 人口の推計と移民受け入れのシナリオ(119) もう1つの人口推計(121)

**2 移民が増えると治安は悪化するのか？** ..... 124

アメリカとカナダにおける殺人率(124) 移民増加と治安悪化の曖昧さ(126)

**3 いま日本は移民を受け入れていないのか？** ..... 127

外国人労働者の急増(127) 外国人居住者の増加(128) 在留資格への着目(129) 身分または地位に基づく在留資格(130) 「長期滞在」している外国人としての移民(131) 「人口減少か移民受け入れか」ではない(132)

**Column 3 社会秩序と解決策のリアリティ** (134)

**第6章 重国籍はいけないことなのか？** ..... 135

話題になる国籍と重国籍(137) 重国籍の世界的な流れ(138)

**1 国籍と市民権** ..... 140

アイデンティティとしての市民権(140) 重国籍の何が問題か？(142) 忠誠心の分裂(144) 重国籍のつくられ方(146)

**2 重国籍への法的対応** ..... 147

5つの事例(147) 世界的傾向を示すEU(148) きわめて寛容な国、イギリス(150) 戦後イギリスと移民の流入(152) 在外同胞の取り込み、フィリピン(152) 制限的な国、日本(154) 重国籍は解消できない(156)

**3 なぜ重国籍への対応が違うのか？** ..... 157

忠誠の分裂への懸念(157) お互いに認めよう(158) 社会統合の手段(159) 経済的利益の追求(160) 国家を超えたアイデンティティ(161) 「帝国」から転換した日本(162)

|                               |     |
|-------------------------------|-----|
| <b>4 重国籍のメカニズムとこれから</b> ..... | 163 |
| 忠誠分裂の解決法 (163) 国民国家への含意 (164) |     |

## 第Ⅲ部 未来編

### 第7章 恋は国境を超えられるか? ..... 167

映画『恋におちて』(169) 国境を越える移動+恋=? (169) 5つの問い (170)

#### 1 人の移動の不自由さ ..... 171

トランプ大統領の衝撃 (171) 国際移民とは (171) 国家主権とは (172)

#### 2 国家主権を超える方法 ..... 175

高度技能移民になる (175) 投資家になる (177) 配偶者になる (180) 日本における配偶者という工夫 (181) 「ロマンチック・ラブ」だけが「恋」ではない (183) 偽装結婚? 恋は手段? (184)

#### 3 多文化社会への社会変動 ..... 187

「単一民族神話」という不自由 (187) 多文化社会化する日本 (189) 国際結婚の増加 (190) 多文化な子どもたち (192) 家族の多文化化 (194)

#### 4 国際移民と「恋」の緊張関係 ..... 195

世代が進むと社会はよくなる? (195) 不思議な恋のゆくえ (197)

### 第8章 市民権から見た領土問題の不思議 ..... 199

先鋭化する領土問題 (201)

#### 1 ナショナル市民権の登場 ..... 203

「国民」の登場 (203) 「市民権」の変容 (203)

|              |                                                                                                                                  |     |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| <b>2</b>     | <b>市民権の変容か？</b> .....                                                                                                            | 205 |
|              | 市民権のリベラル化仮説 (205) 地位 (206) 権利 (209)<br>アイデンティティ (211)                                                                            |     |
| <b>3</b>     | <b>閉鎖的な領土と開放的な人々</b> .....                                                                                                       | 213 |
|              | ナショナル・アイデンティティという共通性 (213) 領土の客体性<br>(215)                                                                                       |     |
| <b>4</b>     | <b>領土問題の今後</b> .....                                                                                                             | 217 |
|              | 「固有の領土」を緩める (217) 「国民国家」を問い直す？ (218)                                                                                             |     |
| <b>第 9 章</b> | <b>ポピュラーカルチャーのグローバル化</b> .....                                                                                                   | 219 |
|              | 国際社会学とポピュラーカルチャー (221)                                                                                                           |     |
| <b>1</b>     | <b>文化帝国主義とポピュラーカルチャー</b> .....                                                                                                   | 222 |
|              | 文化帝国主義という問題 (222) 注目するポピュラーカルチャー<br>(224)                                                                                        |     |
| <b>2</b>     | <b>日本という反証例</b> .....                                                                                                            | 225 |
|              | 戦後復興と文化輸出——1950 年代から 60 年代 (226) グローバル<br>化の進展と多様化——1970 年代 (231) 日本アニメの黄金時代<br>——1980 年代から 90 年代 (232) オリジナルなテーマとその多様性<br>(234) |     |
| <b>3</b>     | <b>文化のグローバル化を超えて</b> .....                                                                                                       | 236 |
|              | 文化的帝国主義といえるのか？ (236) ナショナリズムの現れか？<br>(240) 文化のグローバル化の展望 (242)                                                                    |     |
|              | おわりに .....                                                                                                                       | 243 |
|              | 参考文献 .....                                                                                                                       | 249 |
|              | 索引 .....                                                                                                                         | 259 |

# 「食」と「文化」の グローバル化

第

3

Chapter  
章

## Quiz クイズ

- Q3.1** この世に生まれてからいまでで、印象に残るおいしかった食べ物（または料理）を挙げてみましょう。それは日本のものでしょうか。それとも外国のものでしょうか。
- Q3.2** 次の文の2つの括弧のなかには同じ言葉が入ります。下の語群から1つ選んでください。  
「社会学は、社会システムに照準を合わせるマクロ社会学と、個人を分析単位とするミクロ社会学に大きく分けることができる。ミクロ社会学にとっての分析単位である個人は、（ ）によって動機づけられ、（ ）充足をめざして行為すると言表すことができる」。
- a. 規範   b. 機能   c. 価値   d. 欲求
- Q3.3** 第2章の復習です。フランスに居住する外国人の出身国のうち、人数の多いほうからトップ10に入っているものは次のうちどれでしょう（2017年現在）。
- a. セネガル   b. 韓国   c. 中国   d. インド
- Q3.4** 一般に、イスラム教で食べてはならないとされている食物は次のうちどれでしょう。
- a. 豚肉   b. 牛肉   c. 鶏肉   d. うさぎ肉

## Answer クイズの答え

**A3.1** 本書の担当編集者は、幼少の頃にシドニー郊外のイタリアンレストランで食べたラザニアが、忘れられないのだそうです。イタリア系移民が家族でやっているお店で、数年でなくなってしまったとのこと。みなさんの答えは、どのような食べ物（または料理）だったでしょうか。

### A3.2 d. 欲求

社会システムがその構造を維持するための「b. 機能」を充足しようと作動するのに対して、個人は当該社会の「a. 規範」や「c. 価値」の制約の下で、「d. 欲求」に動機づけられ、その「d. 欲求」を充足するために行うと、社会学では考えられています。

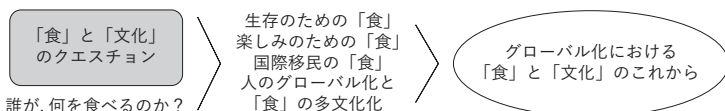
### A3.3 c. 中国

c. 中国が9位を占めており、a. セネガルは15位で、いずれも本文で取り上げます。一方、b. 韓国とd. インドは16位以下です。インドについては本文で触れることにしましょう。

### A3.4 a. 豚肉

豚肉以外の肉は、イスラム教の教義に即した加工や調理が施してあれば食べられる、とイスラム教では一般に考えられています。しかし、豚肉は加工法や調理法にかかわらず食べてはならないタブー（禁忌）です。ちなみに、ユダヤ教でも豚肉はタブーです。一方、ヒンドゥー教は牛肉をタブーにしています。

## Chapter structure 本章の構成



# 1

## 「食」と「文化」のクエスチョン



### □ 「食」と「文化」から考える社会学

この世に生まれてからいままで、印象に残るおいしかった食べ物（または料理）はなんでしょう。こう尋ねられたら、あなたや周りの人々は、どう答えるでしょうか。「子どもの頃にお母さんが作ってくれたカレーライス」と答える人はいるでしょうか。「先週末にレストランで食べたビーフステーキ」と答える人もいるかもしれません。あるいは、想像してみてください。もし、あなたが第二次世界大戦後すぐの食料不足のときに物心ついていたら、アメリカから支給されたコンビーフやパイナップルの缶詰を思い浮かべるかもしれません。

読者それぞれが、それぞれの答えを持っていることでしょう。そしてそれぞれの記憶のなかで輝いているその食べ物や料理は、外国のものかもしれません。グローバル化が進展した現代は、国境を越えてどんどんモノが入ってくる時代なので、日本の原産でないおいしいものに簡単に会えることでしょう。

本章では、食と文化について国際社会学の観点から考察を加えていきます。その際、2つの問いを出発点に置くことにしましょう。1つめは、とても素朴な問いです。そのおいしかった食べ物や料理をどんな理由から口にし、おいしいと思ったのでしょうか。すなわち、「私たちはなぜ食べるのだろうか」という問いです。

次に考えるもう1つの問いは、「『食』と『文化』はどのように関係し、それによってどのような問題が生じているのか」というも

のです。両者の関係について考察するために、議論が散漫にならないようフランスに舞台を絞り論じていきましょう。なんといってもフランスは「食」の国です。「食」と「文化」を考えるには最適な場所なのです。

国際社会学は「食」と「文化」をどのように料理できるでしょうか。第2章に引き続き、私が2013年にパリ政治学院に招聘教授として滞在したときに得た、フランスとパリの「食」と「文化」に関する逸話から始めていきましょう。

#### □> 誰が、何を食べるのか？

フランス滞在中の2013年早春、あるニュースがヨーロッパを駆けめぐりました。牛肉で作られているはずの冷凍食品に馬肉が使われていたということです。パリの街角の有名冷凍食品店の商品からも見つかった、いつも食べているラザーニャは大丈夫なのか、ルーマニアの業者が関与しているらしいなど、フランスのニュース番組は連日取り上げていました。

このニュースを知って、パリ政治学院の授業で教えていたフランス人の学生や各国からの留学生に聞いてみたところ、馬肉を食べたことがある者はいませんでした。学生たちに「日本では九州などに名産地がある」というと、みな一様に「馬肉を食べるのか。シンジラレナイ」という反応を返しました。かなり後になって、フランスでも、アルプス山脈に近い地方でも馬肉を売る店があると聞きました。

食は人々の生き方の基本を示すものです。別の言葉を使うなら、人々の生活の中核といってもいいでしょう。何をどのように食べるかは、とくに国によって異なります。ところが同時に、食は、とて



も容易に国の国境を越えていきます。たとえば日本食は、日本の領土から海外へと渡り、いまでは無数の日本食レストランができあがっています。

また、食は国境を越えると変容することがあります。世界各国に渡った寿司が“Sushi”となったことは、そのよい例ですね。元々の日本文化の発想からは「アボカドで海苔巻きをつくる」というカリフォルニアロールは出てこなかったでしょう。いまでは、各国でアレンジされた Sushi があるようです。

このように、食が国境を越えたり、越えた結果、変容することを「食のグローバル化」と呼びましょう。人の国際移動が頻繁となった現代の世界で、食は移民とともに世界中に広まり、かつ変化していきます。このことは、さまざまな料理を楽しむことができるという意味では望ましいことでしょう。しかし一方で、緊張関係を生み出すこともあります。はたして、食のグローバル化の視角から現代社会はどのように見えてくるのでしょうか。

## 2 生存のための「食」

### □ ファン・ゴッホの「食」

ここで1枚の絵を見てみましょう（写真 3.1）。ファン・ゴッホの若き日の代表作、「馬鈴薯を食べる人たち」（食卓についた5人の農民）です。暗めの部屋のなかで、5人が座っていますね。身なりを見ると、裕福ではなさそうです。何を食べているのでしょうか。どうも、じゃがいもようです。じゃがいものほかに、何もなさそうです。ゴッホはこれと同じモチーフの絵を何枚か描いているので、

# 「ヨーロッパ難民危機」はなぜ「危機」だったのか？

## Quiz クイズ

- Q4.1** 2015 年、シリアなどから「難民」と呼ばれる人々が多数ヨーロッパ連合（EU）の領域に流入し、社会問題になりました。その 1 年間で何人が流入したでしょうか。
- a. 1 万 2000 人以上   b. 12 万人以上   c. 120 万人以上  
d. 1200 万人以上
- Q4.2** 2015 年、EU に流入した「難民」と呼ばれる人々は、EU の加盟国のうち、どの国をめざしていたでしょう。最も多くの難民申請がなされた国を教えてください。
- a. ノルウェー   b. スイス   c. ウクライナ   d. ドイツ
- Q4.3** 「難民」は国際法で定義された存在です。次のうち、国際法上、「難民」と見なされる可能性が最も高いのはどれでしょう。
- a. 環境難民   b. 条約難民   c. 経済難民   d. ネットカフェ難民
- Q4.4** 道徳的に劣っているとして社会的に確立した体制、それを代表する人々や諸集団を敵対視し、自分たちだけが人民を代表すると主張して他の考えを持つ人々を認めない政治的な考え方、または政治手法は、次のうちどれでしょう。
- a. ネオリベラリズム   b. グローバリズム   c. ポピュリズム  
d. アナキズム

## Answer クイズの答え

### A4.1 c. 120 万人以上

シリア以外にも、アフガニスタン、イラク、コンゴ、アルバニアなどから EU へと移動していきました。

### A4.2 d. ドイツ

ちなみに、a. ノルウェー、b. スイス、c. ウクライナは 2015 年時点で EU の加盟国ではなく、2023 年 7 月時点でも加盟していません。

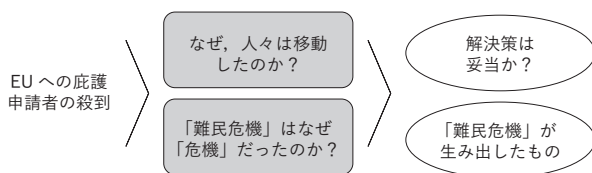
### A4.3 b. 条約難民

条約難民は、1951 年難民の地位に関する条約（難民条約）の定義に当てはまると判断された人々のことで、「政治難民」とほぼ同じ意味で使われています。a. 環境難民は環境破壊によって、b. 経済難民は経済的に困窮することで、住むところを失った人々を指すことが多いです。しかし、いまだ法的な定義はなく、「難民」として保護される対象ではありません。d. ネットカフェ難民は、住居がなくネットカフェで寝泊まりする人々を指すことが多いようですが、これも国際法上の「難民」ではありません。

### A4.4 c. ポピュリズム (populism)

a. ネオリベラリズム (neoliberalism) とは、経済や社会保障などへの国家の介入を最小限にし、公的領域に市場原理を貫徹することを望ましいとし、個人の自己責任を強調する政治的な考え方とその手法のことです。b. グローバリズム (globalism) とは、個々の国家やローカルな地域の独自性、個々人の生活などよりも、モノ、資金、人、文化・情報などの国境を越えた移動と、それにともなう制度や規範の世界規模での画一化を望ましいものとする考え方です。d. アナキズム (anarchism) とは、国家や宗教などの権力や権威を否定し、対等な個人がその自由を最大限発揮しつつ社会をつくり上げるべきだとする考え方のことです。

## Chapter structure 本章の構成



### □▷ 「難民危機」をめぐる問い

2015年のことです。「ヨーロッパ難民危機」と呼ばれる出来事（以降では、「難民危機」とも表記します）が、日本においてもメディアによって大々的に報道されました。報道されたからには、よく知られているかと思いきや、意外にも何が起きていたのかを理解されていないようです。その理由は、第1に複雑で奥の深い現象であり、第2に比較的新しい事件であり、最後にある意味、現在（2023年）も継続している出来事だからといえます。

しかし「難民危機」は、なぜ危機だったのでしょうか。この問いを国際社会学的に検討することで、難民および移民という存在がもたらす社会的影響を明らかにしましょう。

後に見るように、「難民」（refugee）とは国際条約に基づいて受け入れ国が認定してはじめて得られる法的な地位のことです。難民になることを希望して移動する人のことは、「庇護希望者」（asylum seeker）と呼ばれます。難民の要件を満たさなかったり、そもそも難民になるつもりがないような「移民」も少なからず国境を越えていきます。そこで、本章では国境を越えて移動する人々のことを「難民・移民」という表記で示しておきましょう。そして、次の3

つの問いを導き手として「難民危機」に検討を加えていきましょう。1つめに、「難民危機」という名称の下でいったい何が起こったのでしょうか。2つめに、国際社会学的に見て、「難民危機」はなぜ「危機」だったのでしょうか。最後に、解決策といわれるいくつかの方策は有効なのでしょうか。

# 1

## 「難民危機」において何が起こったのか？



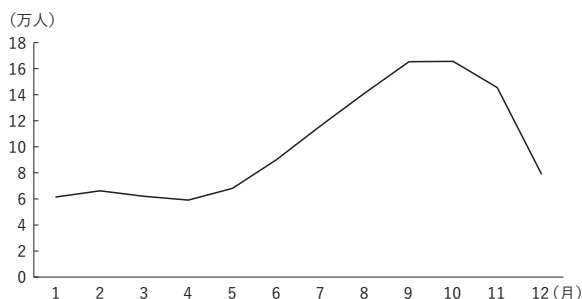
### ➡ EU への庇護希望者の殺到

#### 難民申請の急増

1つめの問いから見ていきましょう。「難民危機」において何が起こったのでしょうか。まずは事実の確認からです。図 4.1 は、ヨーロッパ連合 (EU) 加盟国全体において 2015 年の 1 年間に行われた難民申請数を示したものです。

これを 3 カ月ごとに区切ると、まず 1 月から 3 月までは 18 万 9690 件の申請があり、コソボ (26%)、シリア (16%)、アフガニスタン (7%) の出身者からの申請が多くありました。次に 4 月から 6 月には 21 万 7455 件と増え、出身国は頻繁に報道されたシリア (21%) を先頭に、アフガニスタン (13%)、アルバニア (8%)、イラク (6%)、コソボ (5%) などが占めました。7 月から 9 月になると、難民申請数は 42 万 2880 件に跳ね上がり、シリア出身者 (33%) とアフガニスタン出身者 (14%) が多くなりました。10 月から 12 月になると、難民申請数は落ち着きをみせ始め、39 万 245 件に減少します。しかし、合計すると、2015 年の難民申請数は、122 万 270 件を数え、過去最多となったのです。

図 4.1 EU における 2015 年の難民申請数



(出所) Eurostat (2016, <http://ec.europa.eu/eurostat/web/products-datasets/-/tps00189>) をもとに作成。

## EU 領域内への人の大量移動

翌 2016 年に難民申請数はさらに減少し落ち着きをみせたものの、海路でやってきた者に着目すると同年 1 月 1 日から 2 月 11 日までだけで 8 万 3201 件に上りました。このように、まず「難民危機」において何が起ったのかという問いへの 1 つめの答えは、難民・移民が大量に EU 領域内に移動したという事実になります。そしてその筆頭はシリア出身者だったのです。

### 新しいルートの開発

#### バルカンルート

「難民危機」という名称の下で起こったことの 2 つめは、「新しいルートの開発」でした。

難民・移民が EU 領域内へ入るルートとして 2000 年代に入ったあたりから注目されてきたのは、「中央地中海ルート」です。アフリカ大陸の北に位置するリビアなどから、海路でイタリアへ向かう

# 索引

- アルファベット  
 EC →ヨーロッパ共同体  
 EEC →ヨーロッパ経済共同体  
 EU →ヨーロッパ連合  
 EU＝トルコ声明 108  
 FRONTEX →欧州国境沿岸警備機関,  
 欧州対外国境管理協力機関  
 HKT モデル →ハマー＝小井土＝樽本  
 モデル  
 NATO 107  
 TPP →環太平洋パートナーシップ協定
- あ 行  
 アイデンティティ 75, 77, 80, 81, 101,  
 104, 113, 114, 140, 141, 144, 147, 158,  
 161, 164, 204, 205, 211-213  
 —の希薄化 212, 216  
 イギリスの—— 161  
 EU の—— 105, 106  
 地域—— 162  
 超国家的な—— 158, 161-163  
 アナキズム 88  
 アニメ 224, 230, 232  
 アノミー 134  
 アメリカのテレビ番組 233  
 アラブの春 97  
 域内移動の自由 105, 106, 108  
 イギリスの EU 離脱 161, 174  
 イスラム教 14, 47, 48, 50, 54, 76, 77,  
 79, 80, 195  
 「一流」市民 102, 209  
 移 民 89, 117, 152  
 移民受け入れ国（受け入れ国） 10-  
 12, 22, 103  
 移民国家 147  
 移民集住地区 65, 66  
 アフリカ系の—— 68  
 インド系の—— 69  
 中国系の—— 71  
 ユダヤ系の—— 66  
 移民人口 121, 125  
 移民送出国（送り出し国） 22, 153,  
 160, 181  
 移民排斥 50  
 移民プロフィール 12  
 移民マネジメント 22  
 インストウルメンタル 7  
 インターナショナル・ミドル・カルチ  
 ャー 221  
 インフォミドル 221  
 ウェストファリア条約 203  
 ウェーバー, マックス 7, 28  
 ヴェール 47  
 ウォークマン 232  
 ウォーラステイン, イマニュエル  
 223  
 ウクライナ侵攻 201  
 受け入れ国 →移民受け入れ国  
 映 画 225, 226  
 永住移民 10  
 永住権 185, 209  
 永住者（デニズン） 102, 130, 181-  
 183  
 —の配偶者 130, 181

エスニック国家 148, 159  
エスノナショナル市民権 163  
欧州移民・難民アジェンダ 107  
欧州国境沿岸警備機関  
(FRONTEX) 21, 107  
欧州対外国境管理協力機関  
(FRONTEX) 21, 94, 107  
大澤真幸 38  
小笠原諸島 200  
送り出し国 →移民送出国  
オールドカマー 24, 130, 182

■ か 行

外交保護権 143  
外国人居住者 128-131, 182, 190  
外国人人口 15, 17  
日本の—— 15, 129  
フランスの—— 45  
外国人登録証 22  
外国人労働者 127, 128  
怪獣的なもの 235  
階層格差 18  
階層分化 221  
華 僑 72  
画一化 223  
家族合流 181  
家族再統合 181  
価値 134  
かわいらしさ 235  
観光客 172  
完全な市民権 208  
環太平洋パートナーシップ協定 (TPP)  
173  
帰 化 145, 146, 149-151, 153-155,  
159, 164, 189, 205-207, 212, 213, 217  
技能実習 128  
規 範 134  
キムリッカ, ウィル 210, 211  
キャピタリズム 200

旧植民地 74, 136, 152  
旧植民地移民 10, 152  
旧宗主国 10, 74, 136, 162  
強制結婚 187  
共同体的関係 34, 38, 39, 51  
共和主義 28, 50, 136, 210  
極右政党 (極右勢力) 24, 49, 109,  
217  
居住権 136, 152, 177  
居住主義 136  
居住・ビザプログラム 178  
キリスト教 14, 194, 195  
近代社会 134, 183, 184  
グラズナー, ステファン 203  
グローバル化 (グローカリゼーション)  
240-242  
グローバリズム 88  
グローバル化 11, 20, 25, 31, 45, 55,  
75, 81, 84, 140, 147, 157, 221, 241  
食の—— 57  
グローバル化過程 237  
グローバル化社会 83  
経済的利益 154, 160, 163  
啓示的性質 235  
ゲストワーカー 10, 180  
ゲゼルシャフト 28  
血縁主義 136, 145, 146, 150, 153, 154,  
206, 207  
結 婚 146, 167, 175, 180, 183-187,  
190  
ゲマインシャフト 28, 34  
権威主義 28  
権 利 205, 209, 211  
——と義務 140, 144, 204  
行 為 33, 61, 134  
交響的關係 34, 36, 37, 42, 51  
興行ビザ 186  
合計特殊出生率 115  
拘束的關係 35, 43, 44, 47, 48, 50, 51



高度技能 197  
 高度技能移民 12, 20, 175, 177  
 高度専門職 176  
 合理的選択 99  
 高齢化 119  
 国際移民 9, 14, 24, 45, 64, 117, 132,  
 171, 172, 175, 195, 202, 205, 208, 216  
 —のグローバル化 5, 14, 22, 170  
 国際結婚 149, 167, 190, 192, 194, 197,  
 198  
 —の減少 191  
 国際連合(国連) 103, 119, 123, 136  
 国籍 103, 137, 140, 177, 204-206  
 —の抵触 142  
 国籍継承 150, 153, 206  
 国籍自由の原則 142  
 国籍取得プログラム 178  
 国籍選択 150, 156  
 国籍法 149, 154-156  
 国籍法抵触条約 148  
 国籍唯一の原則 142, 148, 207  
 国民 201, 203, 205, 210, 214, 215  
 国民国家 109, 114, 141, 145, 152, 158,  
 163, 164, 201-205, 214, 216-218  
 国民国家システム 164, 203, 214  
 国連 →国際連合  
 ゴジラ 220, 228, 237, 240, 241  
 コソボ紛争 112  
 国家 134  
 国家主権 25, 168, 171-174, 177, 183,  
 187, 188, 194, 197  
 国境 146, 201  
 国境管理 19, 20  
 —の民間化 21  
 国境紛争 196  
 ゴッホ, フィンセント・ファン 57  
 ゴフマン, アーヴィング 31, 77  
 コミュニタリアニズム 200  
 コンサマトリー 7

■さ 行  
 在外同胞 152, 160  
 サイクス=ピコ協定 97  
 在日コリアン 24, 188  
 再民族化 208  
 在留外国人 168, 189  
 在留カード 22  
 在留管理 174  
 在留資格 16, 128, 130, 176, 181  
 活動に基づく—— 130, 181  
 身分または地位に基づく—— 130,  
 131, 181  
 殺人発生率 125  
 佐藤成基 215  
 差別 79, 193, 205, 209, 210, 216  
 参与観察 29  
 シェンゲン域 45, 178  
 シェンゲン協定 21, 104  
 資格外活動 128  
 自己 38  
 自己充足的行為 →即自的行為  
 自己呈示 77  
 私的領域不干渉の原則 212  
 資本主義 200  
 市民権 102, 104, 140, 144, 147, 151,  
 152, 159, 178, 179, 204-206, 211, 216  
 —の快適地域 205  
 —のパラドクス 104  
 —のリベラ化仮説 206, 209,  
 212-214  
 市民権的地位の開放化 208  
 社会学 33, 34  
 社会規範 181, 196  
 社会契約 134, 204  
 社会主義 73  
 社会正義 188  
 社会秩序 6, 24, 101, 124, 127, 134,  
 159, 163  
 社会的境界 102

- 社会的緊張 45, 47, 49, 82, 229
- 社会的ネットワーク 96, 98
- 社会的不公正 118, 124, 126, 127, 132
- 社会的分断 79
- 社会統合 102, 160, 212
  - 政策 127, 159
- 社会分化の進んだ社会システム 134
- ジャングル大帝 239
- 集合的アイデンティティ 141, 160, 161
- 重国籍（二重市民権, 複数国籍, 複数市民権） 138, 139, 144, 146, 148, 150, 152, 154-156, 159, 161-163, 202, 206, 216
  - の相互承認 158, 163
- 重国籍回避原則 142, 149
- 周 辺 108, 223, 240
- 主権国家 203, 204
- 手段的行為 4, 7
- 出生地主義 136, 145, 146, 150, 206, 207
- 出入国管理 4, 143, 174, 188, 216
- 出入国管理及び難民認定法（入管法） 21
- 少子高齢化 119
- 条約難民 → 政治難民
- 植民地 10, 46, 69, 73, 97, 151, 159, 161, 205
- 女性移民 12
- 新型コロナウイルス 84
- 人口減少 117-119, 123, 132
- 人口動向 121
  - 日本の—— 123
- 人口変動 120
- 人種差別 18
- 人身売買 98, 107
- 人道主義 113, 114
- 新保守主義 220
- 臣 民 136, 151
- 臣民権 151
- ステレオタイプ化 75, 78-80, 237
  - 文化の—— 78, 79, 82
- 政教分離（ライシテ） 47
- 生産年齢人口 120
- 政治難民（条約難民） 74, 88
- 世界金融危機 190
- 世界システム 223
- 石油危機 4, 11, 180, 231
- 尖閣諸島 200, 201
- 選挙権 160, 164
- 潜在扶養率 120
- 先住民民族 210
- 宗主国 161
- 相対化 194
- 即自的行為（自己充足的行為） 4, 7
- た 行
- 第一国ルール 106
- 第3文化の子ども 193
- 大衆文化 → ポピュラーカルチャー
- 大統領令 171
- 第二次世界大戦 9, 10, 12, 22, 67, 130, 142, 143, 147, 152, 162, 180, 182, 200, 214, 220, 223, 226, 228, 240
- 竹 島 200, 201
- 他 者 25, 38, 52
- 旅 5-9, 12, 13, 17, 24, 29, 33
- ダブリン規則 21, 106
- ダブル 193
- 多文化 17
  - な家族 195
  - な子どもたち 192-194, 197, 198
- 多文化化 17, 24, 82, 194, 197
- 多文化市民権 210
- 多文化社会 14, 46, 194
- 多文化主義 23, 28, 147
- 単一民族神話 118, 187-190, 192-196,

198  
 単純労働 11, 128, 176  
 治安悪化 118, 124-127, 132  
 地位 140, 144, 204-208, 211, 216  
 中央地中海ルート 91, 94, 99, 112  
 中間集団 134  
 中心 108, 223, 240  
 忠誠 145, 147, 148, 151, 153, 158,  
 159, 162-164, 179, 207, 212  
 ツツイ, ウィリアム 234  
 出会い 31-35, 40, 50-52, 84  
 ディアスポラ 12  
 帝国 136, 151, 152, 161, 163, 203,  
 214  
 帝国主義 220, 222  
 定住者 131, 181, 182  
 鉄腕アトム 229, 236, 237, 240  
 デニズン →永住者  
 デニズンシップ 208  
 デュルケーム, エミール 134  
 テレビゲーム 231  
 テロリズム 18, 95, 96  
 テンニース, フェルディナント 28  
 同化主義 23, 28, 213  
 東西冷戦 (冷戦) 5, 13, 145, 148, 168,  
 229, 234  
 投資家市民権付与プログラム 177  
 東方領土 214  
 特定技能 128, 133  
 特別永住者 130, 182  
 奴隷労働移民 9  
  
 ■な 行  
 内発的動機 7  
 ナショナル・アイデンティティ 161,  
 213-218, 240-242  
 日本の—— 242  
 ナショナル市民権 141, 204, 208  
 ナチス・ドイツ 67, 214

難民 5, 12, 89, 103, 113, 174  
 難民・移民 89  
 難民危機 →ヨーロッパ難民危機  
 難民議定書 103  
 難民支援の逆説 113  
 難民条約 88, 103, 174  
 難民申請 90, 93, 102  
 難民認定 106, 174  
 二重市民権 →重国籍  
 二重の偶発性 134  
 二重の出生地主義 207  
 二重の不確定性 134  
 日系人 16, 131, 182  
 日本人の配偶者 130, 181, 186  
 日本文化 75  
 入管法 →出入国管理及び難民認定法  
 入植移民 9  
 ニューリッチ 221  
 ネオリベラリズム 88, 113, 200  
 ノッテボーム・ルール 144  
 ノン・ルフールマン原則 174  
  
 ■は 行  
 ハイカルチャー 220, 222  
 配偶者 175, 180-185, 197  
 排除 79, 81, 210  
 パスポート 4, 19, 97, 101, 170, 179  
 パーソنز, タルコット 134  
 ハマーニ小井土ニ榎本モデル (HKT モ  
 デル) 102, 104, 106, 114, 208,  
 209  
 ハマー, トーマス 164  
 バラエティ番組 233, 237  
 ハラル 76, 79, 80  
 ハラルフード 76, 77, 82  
 パルカンルート 91, 92, 94, 99-101,  
 107, 112  
 パレスチナ難民 100  
 ハローキティ 220, 231, 235

半強制契約労働移民 9  
 反差別的権利 210  
 パンデミック 84  
 非合法移民 12, 19, 21  
 庇護希望者 89, 95, 96, 103, 106, 112  
 ビザ 5, 19, 170, 185  
 人の移動 65, 97, 175, 187, 197, 202  
   —のグローバル化 45, 51, 74, 82  
 「人々」の国境 205, 206, 209, 210,  
   214, 217  
 剽窃 238  
 ビルグリム・ファーザーズ 10  
 ヒンドゥー教 54, 70  
 福祉国家 205, 209  
 複数国籍 →重国籍  
 複数市民権 →重国籍  
 部分的市民権 208  
 プラザ合意 4, 13  
 フランスの食 61-63  
 文化 63  
   —のグローバル化 221, 242  
   —を横断する子どもたち 193  
 文化帝国主義 222-225, 236, 242  
 文化帝国主義論 238, 239  
 文化的欲求 64  
 米英戦争 151  
 ヘイトスピーチ 188, 190, 195, 196  
 平和主義 220  
 ベルリンの壁 5, 13, 26  
 偏見 79  
 ポイントシステム 20, 175  
 補充移民 119  
 ポストナショナル・メンバーシップ  
   208  
 ボスニア紛争 112  
 ポップカルチャー →ポピュラーカルチ  
   ャー  
 ホップズ, トマス 134  
 北方領土 200, 201

ポピュラーカルチャー (大衆文化, ポッ  
   プカルチャー) 220, 222  
 日本の—— 226, 231, 234, 239-242  
   —のグローバル化 221, 222, 231,  
   234, 237, 239  
 ポピュリスト政党 24, 49, 92, 109, 217  
 ポピュリズム 88, 109

■ま 行  
 マイノリティ 28, 44, 188, 205, 210,  
   211  
 マジョリティ 23, 28, 127, 188, 211,  
   213  
 マルクス, カール 32, 84, 220  
 マルクス主義 220  
 マンガ 224, 226, 230  
 無国籍 142, 155  
 無国籍防止原則 142, 155  
 メカ 236  
 メルロ＝ポンティ, モーリス 38, 39  
 メンバーシップ 102, 140, 143, 151  
 目的限定的関係 35, 41, 42, 51  
 モラルパニック 101, 104, 111, 114

■や 行  
 ユダヤ教 54, 80, 195  
 抑圧 118, 124, 126, 127, 132  
 欲求 54, 60, 61, 63, 184  
 欲求充足 60, 81  
 ヨブケ, クリスマン 205, 208, 212  
 ヨーロッパ共同体 (EC) 105, 148  
 ヨーロッパ経済共同体 (EEC) 104  
 ヨーロッパ国籍条約 149  
 ヨーロッパ難民危機 21, 89, 97, 101,  
   102, 104, 105, 108, 111, 114, 174  
 ヨーロッパ連合 (EU) 4, 21, 45, 88,  
   90, 91, 94, 95, 97-99, 101-109, 111,  
   112, 114, 119, 148, 158, 159, 161, 168,  
   174, 178, 179

## ■ら 行

ライオンキング 239  
ライシテ →政教分離  
ライフスタイル移民 8  
理想型（理念型） 7  
リベラリズム 200  
リベラル化 206, 208, 210  
リベラル国家 212  
リベラル国家のパラドクス 212  
リメイク 238  
領土 214, 215, 218  
領土問題 200-202, 217, 218  
ルーマン, ニクラス 134  
冷戦 →東西冷戦  
連帯 209  
労働移民 10-12, 149  
ロマ 44  
ローマ条約 104  
ロマンチック・ラブ 183, 184, 186, 187

## ■地域・国名 あ行

アジア 12, 17, 40, 42, 72, 139, 159, 190, 234, 242  
アフガニスタン 88, 90, 92, 101  
アフリカ 9, 12, 45, 68, 75, 91, 139, 171, 242  
アメリカ 10, 13, 17, 119, 125, 126, 136, 147, 151, 153, 171, 174, 176, 178, 185, 187, 190, 200, 220, 223, 225, 228, 236, 242  
アルジェリア 10, 45, 68, 194  
アルバニア 88, 90  
アンティグア・バーブーダ 177  
イギリス 10, 14, 20, 97, 100, 119, 136, 150, 152, 159, 161, 174, 176, 177, 190, 210, 223  
イスラエル 194  
イタリア 15, 21, 91-93, 107, 119, 177

イラク 88, 90, 97  
インド 9, 10, 70, 71  
インドネシア 17  
ウクライナ 88  
オーストラリア 10, 20, 23, 138, 176, 178, 205, 211  
オーストリア 93, 95, 177  
オランダ 93

## ■地域・国名 か行

カナダ 10, 20, 125, 126, 147, 153, 175, 176, 178, 211  
カメルーン 217  
韓国 16, 20, 119, 139, 187, 189, 191, 193, 196, 197, 200, 201  
カンボジア 73  
北朝鮮 189  
キプロス 177  
ギリシア 92, 94, 99, 106-109  
グアテマラ 143  
グレナダ 177  
クロアチア 92  
コソボ 88, 90

## ■地域・国名 さ行

シリア 88, 90-92, 95-101, 102, 108, 111, 112, 114, 171  
シンガポール 190  
スイス 88, 178  
スウェーデン 93, 99  
スペイン 15  
スロバキア 66, 92, 107, 108  
セネガル 45, 68, 69  
セルビア 92  
セントクリストファー・ネイビス 177  
セント・ルシア 177  
ソ連 214

■地域・国名 た行

タイ 17, 177  
大英帝国 151, 161, 205  
台湾 138, 187, 189  
チェコ 66, 107, 108  
中国 16, 72, 138, 189, 193, 200, 201, 217  
中東 12, 97, 171, 242  
チュニジア 10, 45, 68, 92  
ドイツ 11, 88, 93, 94, 96, 99, 100, 106, 108-110, 119, 143, 148, 180, 181, 200, 214, 215, 217  
東南アジア 73  
ドミニカ 177  
トルコ 11, 92, 94, 97, 99, 107, 108, 177, 180, 181

■地域・国名 な行

ナイジェリア 217  
日本 21, 72, 119, 138, 139, 148, 154, 157, 162, 176, 181, 186, 187, 189-191, 193, 201, 225  
ニュージーランド 20, 205  
ネパール 17, 189  
ノルウェー 88

■地域・国名 は行

パキスタン 10, 19, 71, 162  
パリ 29, 36, 39, 41, 44, 45, 59, 65, 67-69, 71, 73, 74, 78  
ハンガリー 92, 100, 107, 108  
バングラデシュ 10, 14, 19, 71  
フィリピン 16, 148, 153, 157, 160, 186, 193  
フィンランド 15, 108

ブラジル 16, 131, 154, 182, 193  
フランス 10, 29-31, 36, 44-51, 56, 61, 67, 69-71, 73, 74, 95, 97, 100, 110, 119, 136, 141, 151, 194, 210, 223  
ブルガリア 92  
ベトナム 17, 72, 73, 189  
ベルー 16, 131, 182  
ベルギー 178  
ポーランド 107, 200, 214, 217  
ポルトガル 177  
香港 20

■地域・国名 ま行

マケドニア 92, 100, 106, 107  
マダガスカル 69  
マリ 45, 69  
マルタ 177-179  
南アメリカ 12  
メキシコ 171  
モルドヴァ 177  
モロッコ 10, 45, 68  
モンテネグロ 177

■地域・国名 や行

ヨルダン 177  
ヨーロッパ 4, 10, 13, 14, 24, 36, 92, 97, 99, 119, 190, 234, 242

■地域・国名 ら行

ラオス 73  
リヒテンシュタイン 143  
ルーマニア 108  
レバノン 97, 100  
ロシア 119, 200, 201, 217  
ロンドン 14

【y-knot】

# 国際社会学・超入門

## 移民問題から考える社会学

*Introduction to Transnational Sociology: Perspectives on Immigration Issues*

---

2023 年 10 月 30 日 初版第 1 刷発行

著 者 樽本英樹  
発行者 江草貞治  
発行所 株式会社有斐閣  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17  
<https://www.yuhikaku.co.jp/>  
装 丁 高野美緒子  
印 刷 株式会社理想社  
製 本 牧製本印刷株式会社  
装丁印刷 株式会社享有堂印刷所

落丁・乱丁本はお取替えいたします。定価はカバーに表示してあります。

©2023, Hideki Tarumoto.

Printed in Japan. ISBN 978-4-641-20007-4

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

**JCOPY** 本書の無断複写(コピー)は、著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(一社)出版者著作権管理機構(電話03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail:info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。